

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972100337		
法人名	社会福祉法人 香南会		
事業所名	グループホーム せんだんの里		
所在地	高知県香南市野市町中ノ村770番地1		
自己評価作成日	平成26年10月20日	評価結果 市町村受理日	平成27年3月20日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の立地条件として、保育所、幼稚園、小学校が近隣にあり、運動会や夏祭りなど行事への参加が恒例となっている。また、子供たちの元気な声に入居者の方が和める場所となっている。地域の行事へも積極的に参加し、地域住民の方との交流も継続して行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JivosoCd=3972100337-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JivosoCd=3972100337-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成26年12月9日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は道路を挟んで小学校、幼稚園、保育所と隣接しており、生徒や児童と行事を通して交流しやすい環境にある。自治会長から無償貸与された畑を小学校と共用して芋を栽培し、秋には一緒に収穫して焼き芋会を楽しんでいる。焼き芋会は家族の提案で始まった行事であり、家族との協力関係も築かれている。また、小学校の卒業式に招待されたり、幼稚園行事にも参加して交流が続いている。事業所は開設10年目で認知症介護の実績を積み、「認知症サポーター養成講座」へも参画して事業所の活動を周知することに努めている。

管理者は、職員が偏りなく研修に参加できるように配慮し、職員は介護への意欲と主体性を持って、利用者一人ひとりの状態に沿ったケアを考え、実践している。両ユニットの管理者は10月に異動したばかりであるが、職員会ではケアについての意見が活発に出され、職員と共にチームワークを取って利用者本位のサービスに努めている。利用者は、子供との交流や行事を楽しみ、事業所の理念である「思いやり」に沿ったケアを受けて日々暮らしている。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: すいせん

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛と笑顔と思いやり」という基本理念のもと、管理者・職員はミーティング等にて理念に沿ったケアを行っていくよう話し合い、実践できるよう努めている。	地域との触れ合いの中で「愛と笑顔と思いやり」のあるケアを目指すという理念を作成し、職員が目にしやすい場所に掲示して日々の心構えとするとともに、職員会等でケア内容を話し合い、理念を再確認している。ケアでは、利用者の笑顔に重点を置いて取り組んでいる。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ入会し、地域の行事に積極的に参加している。また、近隣の幼稚園や小学校との定期的な交流も行っている。	開設当初から町内会に加入し、地区行事に参加して地域の一員として活動している。自治会長から無償貸与された畑で、小学校と一緒に芋栽培や焼き芋会を催して交流し、保育園や幼稚園とも互いの行事で訪問し合っている。近隣から野菜の差し入れ等もあり、地域に開かれた事業所となっている。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の総会等にて、認知症の相談等気軽に相談できるよう事業所としてアピールしている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見や検討事項について職員会で報告、検討している。いただいた意見に対しては実行出来るように取り組み、次の会で経過報告している。	地域代表には自治会長と消防署員が参加し、事業所の報告をもとに、地域情報や防災面での意見交換が行われている。消防署員の助言により、防火のための自主点検チェック表を作成し、毎日活用している。管理者は、他の事業所の会議状況を視察し、優れた点を取り入れるよう努めている。	会議の活性化のために、自己評価や外部評価で気づいた事業所の課題を議題に挙げ、目標達成計画と合わせて協議するなど、活動報告以外に議題を設定して、参加者が幅広く意見を出せる工夫を期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での報告はもちろんのこと、日々のケアでの困難事例等市との連携が図れるよう努めている。	地域包括支援センターには、困難事例に関して家族関係の情報や帰宅願望への対処について助言を受けており、相談しやすい関係を築いている。また、2カ月に1回、市主催の情報交換会に出席し、病院看護師による勉強会などを通じて他の事業所と共に市との交流を深めている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体での身体拘束のマニュアルを基に、身体拘束をしないケアが実践できるよう努めている。また、職員への教育も定期的に行いケアの統一を図っている。	身体拘束廃止マニュアル等に基づき、身体拘束の意味を毎月の勉強会で確認している。ケアにおいては利用者の尊厳を守る姿勢を堅持することに努め、行動を抑止する言動があればその場で注意し、帰宅願望の強い利用者には、原因を見極めて行動を拘束しない対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、随時話をし虐待の徹底防止に努めている。管理者は職員の様子にも気を配り、話をする機会を持つように心掛け、働く側のストレスについても見逃すことのないよう気をつけている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度等が必要な入居者については、管理者が市町村等に出向き対応する体制をとっている。また、職員にも制度を理解するよう勉強会を行っている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・入居契約書等を基に、ご家族が不安を持つことのないよう、不明な点はないか尋ねながら説明を行っている。入居前や面接時にも事前に来る説明を、出来る限り行うよう努めている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の介護場面、ご家族の来訪時に職員が意向を聞いたり、意見を言いやすい環境を作っている。運営推進会議にも参加して頂き、市や家族、地域の方にも入居者の意見や要望を表せる機会を作っている。	利用者には日々の会話の中で希望を聞き、家族には面会の機会や年3～4回開催する家族会において家族だけで話し合う場も設定して、意見を聞くようにしている。また、意見箱を設置し、外部の第三者委員と定例会を持って意見内容を話し合っている。家族からの提案で焼き芋行事が始まり、家族の協力も得られている。	家族会への参加をさらに増やすためにも、家族会の記録を欠席した家族に送付し、家族会への関心を高める工夫を期待したい。
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議にて意見を聞くようにしている。また、日々の業務中でも気軽に意見が言えるような環境を作り、職員の意見を反映させた運営を心がけている。	職員会は職員が司会進行し、管理者は助言しながら意見を引き出すようにしている。職員からは、粗大ごみ処分等の環境改善の提案や、利用者のケアにかかる情報交換などが行われ、運営に活かしている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況や業務状況を把握し、無理なく業務がこなせるよう努めている。また、勤務表も職員の希望を聞き、出来る限り反映している。向上心を持って働けるよう日々の声かけもしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用の職員には、必ずオリエンテーションを行い、法人内の新人研修や外部研修にも参加できるようにしている。職場内では先輩職員から随時実践のアドバイスが受けられるようシフトを組み、職員同士の切磋琢磨が図れるように努めている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会に積極的に参加を促し、同業者との交流が図れるように努めている。また、研修内容を報告してもらい、実践に生かせるよう努力している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時には事前に家族や担当職員から情報を得た上で本人と面接し、ゆっくり話をする時間を作っている。まずは、困っている事が無いか伺い、安心できるような言葉がけをしている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時に十分な時間を取り、これまでの経過について話を聞くようにしている。困っていること、不安に思っていること等、家族の立場になって話を伺うようにしている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに受け入れが困難な時には、市の窓口や他の施設を紹介するなど、対応を行っている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活の中でも入居者に教えてもらうことも多い。一緒に活動することで、「おふくろの知恵」を職員が覚えることがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族の来訪時や家族会の折には、入居者の様子や日頃の職員の思いについて伝え、協力いただいている。また、月一回の「せんさん便り」にて近況を報告している。</p>		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご本人の希望により、友人等が面会に来ていただけるよう、ご家族や友人の方に協力して頂いている。入居時には、生活歴や人間関係等の把握に努めている。</p>	<p>センター方式の様式を使用したアセスメントを始めており、その中で馴染みの関係の情報把握に努めている。得られた情報をもとに、利用者の希望に応じて、ドライブで自宅周辺や行きつけのスーパーへ出かけ、馴染みの人と言葉を交わすことで関係継続の支援をしている。</p>	
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者の人間関係に留意し、食堂の席や居室の場所に配慮することで、トラブルを防止している。食事中も入居者の間に入り、関係が円滑になるように心掛けている。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>他の事業所に移られた場合は、管理者や職員が出来る限り訪問するよう努めている。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>毎日の会話の中で本人の思いを把握するように努めている。ご家族の来訪時にも話を伺い、本人の把握に努めている。また、日々の表情や振る舞いにも注意し観察をしている。</p>	<p>利用者と夕食後の時間などに、ゆっくり話をしながら思いを聞いている。自宅の状態が気になる利用者には、家族との関係が途絶えないよう努め、事業所の生活を安心して楽しめる方策を検討している。意思伝達が困難な利用者には、家族から元気な頃の情報を聞いて背景を把握し、検討している。</p>	<p>利用者の言動から把握した思いについても、日々の記録簿に記載するように努め、職員同士で共有して介護計画や、ケアに反映していくことを期待したい。</p>
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居後の介護や声かけに生かすことを説明し、入居前に生活歴や今までのサービス利用状況を伺っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の癖や生活パターンを観察し、心身状態の変化をみている。職員間で共通認識をもち、援助方法を検討しながら介護するよう努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会にて、評価やカンファレンスを行い、日々の介護での意見をケアプランに反映できるように努めている。	本人・家族の意向や訪問看護師等の意見を踏まえ、全職員の意見を聞けるよう職員会を複数回開催して介護計画を作成し、3カ月毎に見直している。作成に当たっては本人の健康状態に合わせ、地域との関わりや生活機能を維持し、本人の楽しみを活かせる内容を心がけ、状態変化時は随時見直している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や日誌記録等すべてにおいて電子処理を行っている。簡単な操作で、情報の共有が図れている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族のその時の状況に応じ、対応をしている。介護計画の見直しを行い、その人がその人らしい生活ができるよう、また家族が安心して就労や生活が過ごせるよう努めている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市独自のサークル等の紹介は受けているが、今のところ参加するまでは至っていない。今後は参加できるよう取り組んでいく。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の訪問診療や、病状に応じて専門科への受診対応は行っている。定期的な受診に対しては基本的にご家族に依頼しているが、ご家族の都合にて随時職員が対応している。	利用者・家族の希望するかかりつけ医で受診しており、ほとんどの利用者が投薬等の利便性から協力医をかかりつけ医に希望し、月2回以上の訪問診療を受けている。協力医以外のかかりつけ医や専門医には、職員が付き添い、いずれも受診情報を記録して家族及び職員と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を取っており、日々の健康管理や体調不良時の報告を行い、随時対応してくれている。また、主治医との連携も密に行っている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日頃の対応の仕方や様子を情報提供し、入院中は職員が様子を見に行き、回復状況の把握に努めている。また、ご家族とも連絡を取り合い、早期退院に向け取り組んでいる。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として看取りの指針があり、看取り介護に取り組む体制ができている。ご家族や主治医・看護等との連携を図り、住み慣れた環境での終末が迎えられよう努めている。	重度化への対応指針を法人が作成しており、入居時に、事業所での看取り対応が可能であることを説明している。24時間訪問看護と協力医の連携による体制を整えており、家族の協力を得て対応することとし、職員は終末期ケアの研修へ参加している。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が、救急救命法を受講している。また、職員会でも緊急時の対応等職員間で徹底を図っている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回入居者も参加した避難訓練を行っている。地域の防災訓練にも参加し、災害時の協力をお願いしている。	地震訓練では、避難場所の隣接小学校まで利用者も一緒に避難している。年2回の防火訓練には消防署の協力があり、自治会長が参加している。夜間想定訓練も実施し、訓練では消防署と登録者に緊急ボタンで通報している。食料・水等の備蓄は3日分以上の量を確保することになっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症についての勉強会を毎月行い、対応の仕方等職員の意識改革の機会を設け、実践している。	利用者には先輩としての敬意をもって接し、丁寧な言葉遣いをするよう心がけている。勉強会では馴れ合って不躱なケアになってないか振り返り、意識を新たにしている。入浴、排泄、プライバシーに関する場面では人格を損なわない声かけを徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から入居者の状態に合わせた声かけを行っている。希望や思いを引き出せるように複数の選択肢をあたえられる声かけを行うよう努めている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所内の一日の流れはあるが、入居者一人一人のペースに合わせたケアを行っている。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の意向に添い、服装や整髪等確認しながら行うよう努めている。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片付け等可能な活動を促し、職員と一緒にやっている。出来たことへの自信にもなっている。	法人の栄養士が事業所の希望を聞いてメニューを作成し、食材を配達している。本部では毎月、給食検討会を開き食事内容を検討している。利用者は畑で収穫した野菜の下ごしらえなど、可能なことを手伝い、刻み食等の食べやすい形態で食事を楽しみ、職員は介助しながら見守っている。	職員も利用者と一緒に同じ物を食べ、味を確認しながら、より一層家族的な食事になるよう検討を期待したい。
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立により、バランスの取れた食事を提供している。入居者一人一人の嗜好も取り入れている。水分摂取もこまめに行い、毎日必要量を無理なく摂取できるよう努めている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの見守りや声かけを行い、実践している。義歯の消毒も週1回行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、時間誘導や声かけを行い、出来るだけ失禁回数が減り、トイレでの排泄が可能となるよう努めている。また、排泄用品の使い分けをし自立に向けた取り組みも行っている。	排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄間隔を把握し、トイレ誘導による排泄の自立を支援している。利用者の4分の1ほどは自分でトイレに行き、職員が見守りながら排泄できている。夜間はポータブルトイレも利用しながら支援し、継続することで失禁回数が減少した利用者もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や体を動かす事で、自然排便ができるように取り組んでいる。毎日の排便チェックにて、必要に応じ緩下剤を使用し便秘の解消を図っている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制を取っている。午後からの入浴であるが、必要に応じいつでも入浴できるように努めている。	入浴を好み、毎日入浴する利用者もいる。利用者の希望に応じて、いつでも入浴できるように取り組んでおり、順番の調整等を行っている。入浴を拒否する利用者には、脱衣等への拒否感を和らげる声かけを工夫し、入浴につなげている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動を促し、生活リズムを整え夜間の良眠が出来るように支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人の内服内容の一覧を作成し、確認を行いながら服薬介助をしている。臨時薬等の申し送りも徹底している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物の整理等、可能な活動を促し、役割を持ってもらうことで張り合いのある日常生活が過ごせるよう支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時は、散歩に出かけたりしている。年間行事にて、出来る限り外出の機会を設け気分転換を図っている。	散歩を希望する利用者が多く、天気の良い日は、小学校の周辺を散歩し、生徒の姿を見るのを楽しみにしている。散歩には、車いすの利用者も出かけている。花見や遠足の外出行事には、法人のバスと運転手を借りて全員で出かけ、戸外での弁当を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な入居者はおられず、個人の買い物も職員が代行するか、ご家族の方に依頼し購入してもらっている。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙等は入居者の方に手渡しているが、電話の対応はほとんどない状態である。ご家族の方に出来る限りの面会は依頼している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りをしたり、食事も季節の食材を工夫して提供するなど配慮している。	居間には、季節行事に合わせた飾りつけをして季節感を工夫している。天窓からの自然な採光で共用空間は明るく、少し手狭ではあるが、職員と利用者の距離が近く、家庭的な雰囲気を作っている。壁には行事の写真や、季節感のあるパッチワークが飾られ、親しみのある空間にしている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士が指定席にて話をし、楽しく過ごしている。新聞を読んだり、テレビを視聴したり一人になれる時間も持っている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や仏壇を持って来られている方もあり、一人一人の好みに合わせた居室で過ごしていただいている。	居室のベッド以外は、利用者の馴染みの物が持ち込まれ、筆筒や椅子の家具のほか、ぬいぐるみ人形、家族写真等、本人の気に入るものを置いて、家族の協力も得ながら、本人が落ち着いて過ごせるように居室づくりを行っている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや段差のない環境ができ、安全な対応を行っている。場所が分からない時は付き添い、できること・わかることは自立を促している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:ひばり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛と笑顔と思いやり」という基本理念のもと、管理者・職員はミーティング等にて理念に沿ったケアを行っていくよう話し合い、実践できるよう努めている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ入会し、地域の行事に積極的に参加している。また、近隣の幼稚園や小学校との定期的な交流も行っている。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の総会等にて、認知症の相談等気軽に相談できるよう事業所としてアピールしている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見や検討事項について職員会で報告し、検討している。いただいた意見に対しては実行出来るように取り組み、次の会で経過報告している。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での報告はもちろんのこと、日々のケアでの困難事例等市との連携が図れるよう努めている。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体での身体拘束のマニュアルを基に、身体拘束をしないケアが実践できるよう努めている。また、職員への教育も定期的に行い、ケアの統一を図っている。		

7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止法について、随時話をし虐待の徹底防止に努めている。管理者は職員の様子にも気を配り、話をする機会を持つように心掛け、働く側のストレスについても見逃すことのないよう気をつけている。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b></p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度等が必要な入居者については、管理者が市町村等に出向き対応する体制をとっている。また、職員にも制度を理解できるよう勉強会を行っている。</p>		
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b></p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書・入居契約書等をもとに、ご家族が不安を持つことのないよう、不明な点はないか尋ねながら説明を行っている。入居前や面接時にも事前に出来る説明を、出来る限り行うよう努めている。</p>		
10	(6)	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b></p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の介護場面、ご家族の来訪時に職員が意向を聞いたり、意見を言いやすい環境を作っている。運営推進会議にも参加して頂き、市や家族、地域の方にも入居者の意見や要望を表せる機会を作っている。</p>		
11	(7)	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b></p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の職員会議にて意見を聞くようにしている。また、日々の業務中でも気軽に意見が言えるような環境を作り、職員の意見を反映させた運営を心がけている。</p>		
12		<p><b>○就業環境の整備</b></p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている</p>	<p>職員の勤務状況や業務状況を把握し、無理なく業務がこなせるよう努めている。また、勤務表も職員の希望を聞き、出来る限り反映している。向上心を持って働けるよう日々の声かけも行っている。</p>		

13	<p><b>○職員を育てる取り組み</b></p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新規採用の職員には、必ずオリエンテーションを行い、法人内の新人研修や外部研修にも参加できるようにしている。職場内では先輩職員から随時実践のアドバイスが受けられるようシフトを組み、職員同士の切磋琢磨が図れるように努めている。</p>		
14	<p><b>○同業者との交流を通じた向上</b></p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部の研修会に積極的に参加を促し、同業者との交流が図れるように努めている。また、研修内容を報告してもらい、実践に生かせるよう努力している。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p><b>○初期に築く本人との信頼関係</b></p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>相談時には事前に家族や担当職員から情報を得た上で本人と面接し、ゆっくり話をする時間を作っている。まずは、困っている事が無いか伺い、安心できるような言葉がけをしている。</p>		
16	<p><b>○初期に築く家族等との信頼関係</b></p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>申込時に十分な時間を取り、これまでの経過について話を聞くようにしている。困っていること、不安に思っていること等家族の立場になって話を伺うようにしている。</p>		
17	<p><b>○初期対応の見極めと支援</b></p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>すぐに受け入れが困難な時には、市の窓口や他の施設を紹介するなど、対応を行っている。</p>		
18	<p><b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b></p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>普段の生活の中でも入居者に教えてもらうことも多い。一緒に活動することで、「おふくろの知恵」を職員が覚えることがある。</p>		

19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族の来訪時や家族会の折には、入居者の様子や日頃の職員の思いについて伝え、協力をいただいている。また、月一回の「せんだん便り」にて近況を報告している。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご本人の希望により、友人等が面会に来ていただけるようご家族や友人の方に協力して頂いている。入居時には、生活歴や人間関係等の把握に努めている。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者の人間関係に留意し、食堂の席や居室の場所に配慮することで、トラブルを防止している。食事中も入居者の間に入り、関係が円滑になるように心掛けている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>他の事業所に移られた場合は、管理者や職員が出来る限り訪問するよう努めている。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>毎日の会話の中で本人の思いを把握するように努めている。ご家族の来訪時にも話を伺い、本人の把握に努めている。また、日々の表情や振る舞いにも注意し観察をしている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居後の介護や声かけに生かすことを説明し、入居前に生活歴や今までのサービス利用状況を伺っている。</p>		

25		<p><b>○暮らしの現状の把握</b></p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>入居者の癖や生活パターンを観察し、心身状態の変化を見ている。職員間で共通認識をもち、援助方法を検討しながら介護するよう努めている。</p>		
26	(10)	<p><b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b></p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>職員会にて、評価やカンファレンスを行い、日々の介護での意見をケアプランに反映できるよう強めている。</p>		
27		<p><b>○個別の記録と実践への反映</b></p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護記録や日誌記録等すべてにおいて電子処理を行っている。簡単な操作で、情報の共有が図れている。</p>		
28		<p><b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b></p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者・家族のその時の状況に応じ、対応をしている。介護計画の見直しを行い、その人がその人らしい生活ができるよう、また家族が安心して就労や生活が過ごせるよう努めている。</p>		
29		<p><b>○地域資源との協働</b></p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>市独自のサークル等の紹介は受けているが、今のところ参加するまでは至っていない。今後は参加できるよう取り組んでいく。</p>		
30	(11)	<p><b>○かかりつけ医の受診支援</b></p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>主治医の訪問診療や病状に応じて専門科への受診対応は行っている。定期的な受信に対しては基本的にご家族に依頼しているが、ご家族の都合にて随時職員が対応している。</p>		

31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を取っており、日々の健康管理や体調不良時の報告を行い、随時対応している。また、主治医との連携も密に行っている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日頃の対応の仕方や様子を情報提供し、入院中は職員が様子を見に行き、回復状況の把握に努めている。また、ご家族とも連絡を取り合い、早期退院に向け取り組んでいる。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として看取りの指針があり、看取り介護に取り組む体制ができている。ご家族や主治医・看護等との連携を図り、住み慣れた環境での終末が迎えられるよう努めている。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が、救急救命法を受講している。また、職員会でも緊急時の対応等職員間で徹底を図っている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回入居者も参加した避難訓練を行っている。地域の防災訓練にも参加し、災害時の協力をお願いしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症についての勉強会を毎月行い、対応の仕方等職員の意識改革の機会を設け、実践している。		

37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から入居者の状態に合わせた声かけを行っている。希望や思いを引き出せるように、複数の選択肢をあたえられる声かけを行うよう努めている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所内の一日の流れはあるが、入居者一人一人のペースに合わせたケアを行っている。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の意向に添い、服装や整髪等確認しながら行うよう努めている。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片付け等可能な活動を促し、職員と一緒にしている。出来たことへの自信にもなっている。		
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立により、バランスの取れた食事を提供している。入居者一人一人の嗜好も取り入れている。水分摂取もこまめに行い、毎日必要量無理なく摂取できるよう努めている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの見守りや声かけを行い、実践している。義歯の消毒も週1回行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、時間誘導や声かけを行い、出来るだけ失禁回数が減り、トイレでの排泄が可能となるよう努めている。また、排泄用品の使い分けをし自立に向けた取り組みも行っている。		

44		<p><b>○便秘の予防と対応</b></p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事の工夫や体を動かす事で、自然排便ができるように取り組んでいる。毎日の排便チェックにて、必要に応じ緩下剤を使用し、便秘の解消を図っている。</p>		
45	(17)	<p><b>○入浴を楽しむことができる支援</b></p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>毎日入浴できる体制を取っている。午後からの入浴であるが、必要に応じいつでも入浴できるように努めている。</p>		
46		<p><b>○安眠や休息の支援</b></p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中は出来るだけ活動を促し、生活リズムを整え夜間の良眠が出来るように支援している。</p>		
47		<p><b>○服薬支援</b></p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>入居者一人一人の内服内容の一覧を作成し、確認を行いながら服薬介助をしている。臨時薬等の申し送りも徹底している。</p>		
48		<p><b>○役割、楽しみごとの支援</b></p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>洗濯物の整理等、可能な活動を促し、役割を持ってもらうことで張り合いのある日常生活が過ごせるよう支援している。</p>		
49	(18)	<p><b>○日常的な外出支援</b></p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気の良い時は、散歩に出かけたりしている。年間行事にて、出来る限り外出の機会を設け、気分転換を図っている。</p>		

50		<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b></p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理が可能な入居者はおられず、個人の買い物も職員が代行するか、ご家族の方に依頼し購入してもらっている。</p>		
51		<p><b>○電話や手紙の支援</b></p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>手紙等は入居者の方に手渡しているが、電話の対応はほとんどない状態である。ご家族の方に出来る限りの面会は依頼している。</p>		
52	(19)	<p><b>○居心地のよい共用空間づくり</b></p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節ごとの飾りをしたり、食事も季節の食材を工夫して提供するなど配慮している。</p>		
53		<p><b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b></p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う入居者同士が指定席にて話をし、楽しく過ごしている。新聞を読んだり、テレビを視聴したり一人になれる時間も持っている。</p>		
54	(20)	<p><b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b></p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の写真や仏壇を持って来られている方もあり、一人一人の好みに合わせた居室で過ごしていただいている。</p>		
55		<p><b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b></p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりや段差のない環境ができ、安全な対応を行っている。場所が分からない時は付き添い、できること・わかることは自立を促している。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい			○	2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				